

## 鉄杵を磨きつつ学会の解放性をめざす

理事長 橋本光明 (信州大学)

本年度も「鉄杵を磨く」ように根気強く学会運営に取り組んで参りたいと思います。平成19年度の兵庫大会総会において学会改革を提案し、会員の皆様のご助言や励ましのお言葉を支えにここまでやってきました。

お陰さまで、20年度内に大きな鉄杵を磨き場へ運ぶまでにこぎつけました。このパワフルな活動ができたのは、会員の皆様の温かい後押しと各理事や委員、総務局及び事務局全員のご尽力によるものと厚く感謝申し上げます。

2年目に入りましたが、本年度は、学会の将来展望を踏まえた改善や転換を図る必要があります。変改すべき点は山ほどありますからその項目を示すだけで1頁になります。紙幅が限られていますのでここでは、「学会の解放性」の1点に絞って所懐の一端をお伝えしながら挨拶とさせていただきます。

**学会と部門** 本学会員として活躍されている会員の4割余りの皆様にとって分かりにくいのが「部門」の存在です。6月に郵送しました通信である程度は読み取ることができたと思いますが、同じ学会員でありながら二つに分かたれていることが腑に落ちないという会員がいらっしゃることでしょう。

本学会設立の歴史的な背景から会員の半数以上が、「学会」と「部門」に所属しています。これは、本学会の特色であり、優れた知的・人的財産を有しており結集すれば価値ある成果を生み出すことが期待できます。また、国内の美術教育関連の諸学会の中で最大の会員数を維持しているのもこの「部門」、すなわち「日本教育大学協会全国美術部門」の基盤があるからです。

しかしながら組織基盤の上で外に開かれた学会としての働きは十分なものではありませんでした。両者の混淆から制度化された「名誉会員」は、学会の開放性が進むにつれてつじつまの合わないものになりましたが、思い切った取りさばきができないままでした。20年度にご退職される会員の方々を思いますと私自身苦渋の決断でしたが、改革期を節目として名誉

会員制度を廃止しました。これにより退職される全ての会員の方々が、自らの判断で会員を継続し研究活動を行えるようにいたしました。

**学会と私大** 私立大学との関係については、20年程前から私大会員の特別会員制をなくしたり役員に私大代表理事を位置づけたりして一步一步の漸進を見ることができそうですが、組織・運営や研究面などにおける一体となった取組みは遅れているといえます。

そこで昨年度、2つの改善をしました。一つは、総務局メンバーに私大会員が入ることで私大代表理事とは異なる面から私立大学とのパイプ役になっていただくことにしました。二つめは、大会開催大学を開放することでした。開催担当ブロックを大ブロック制にする際に私大会員が多い地区においては、条件が揃えば私大での学会開催を実現できるようにしました。

この結果来年度は、武蔵野美術大学をメイン会場にして学会を開催することになりました。これにより本学会の解放性が具体化され、開かれた学会として発展・興隆する大きな礎になると思っています。

**学会と学校** 理論と実践の接点や融合等の開拓に視座した研究活動が益々重視されています。同時に、複雑多様化する教育課題に対応できる指導力を備えた教員の養成の在り方などが求められています。本学会は、この点から幼・保、小中高、特別支援等の実践研究や美術館・博物館等の教育活動や文化活動などに関わりをもち、その連携や充実を図るためにも学校現場や美術館等で熱心に取り組まれている方々に加入していただけるよう開放に向けた環境づくりをしなければなりません。

その第一歩として愛知大会から非会員の方のポスター展示を企画して学会に参加する機会をつくりました。また、小中学校で活躍されています学会員2名の先生に総務局理事を委嘱して新風を吹き込んでいただいています。これら開放に向けて会員の皆様のご理解とさらなるお力添えをお願い致します。

## 熱い場を願って

副理事長 大嶋 彰（滋賀大学）

本年度より、佐藤哲夫前学会誌委員長のあとを引継ぐことになりました。以前に編集委員長の経験があるとはいえ、このような大きな制度改変の時期では荷が重過ぎますが、会員の皆様のご協力のもと、微力ではありますが任務を全うすることができればと念じております。どうぞよろしく願いいたします。

私事で恐縮ですが、本学会の会員になって四半世紀が経とうとしています。右も左も分からないうちから、教員養成系大学に就職した以上は、専門の絵画と同等に美術教育の専門家にも近づこうと、院生と一緒に学んで始めた頃を懐かしく思い出します。そして、その頃から思い描いていた美術教育が学校教育全体の土台になるはずだ、という思いは今でも変わっていません。

本学会誌が、常に土台から掘り返すような熱い場になることを願っています。

## 副理事長挨拶

副理事長 増田金吾（東京学芸大学）

橋本理事長のリーダーシップによる組織の変更で、これまでお受けしていた総務局長は任期半ばですが、この度、副理事長を拝命いたしました。総務局長在任中は、会員の皆様に多大なるご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、これまで副理事長二人の役割は、学会誌委員長と、学会誌編集委員長でした。今年度からは、一人は学会誌委員長として学会誌全体に係わり、もう一人（小生）は、学会会則の事業「3. 調査研究」と「4. その他本会の目的を達成するために必要な事業」に係わることとなりました。

まずは、4について、22年2月開催予定の「学会フォーラム」の実施内容に関し、手がけたいと思います。また、3についても慎重に検討を進めて参ります。会員の皆様のお声もお聞かせください。

## 丈夫な頭の議論を

常任理事 藤澤英昭（千葉大学）

学会においてはいつも賢い頭に遭遇するのであるが、丈夫な頭に出会いたいと願っている。過日元東大の総長であった佐々木 毅と話をする機会を得た。彼も政治学者として、学問としての政治と政治学にかかわる学の問題について深く考えていたようである。

どの学問でもいえることであるが、学の成立からしばらく時間をおくと「学」が独立して歩き始めるようになる。思慮をもつぱらとするまさに哲学とそれを研究対象とするいわばメタ哲学としての哲学学が誕生する。とくに教育学では顕著で、教育事象に直接的にかかわることを避けて、安全圏にしながら教育学ごっこを楽しむ人が出てくる。どうでもよいような知識を振りかざす人に翻弄させられる。これが学会を腐らせる。

佐々木氏との話は大学人をめぐっての話であるし、政治学者が実際の政治と政治家とますます離れていくような傾向に言及してのことではある。

かしこく、そしてもろい頭は政治家のような強靱さを売り物にする頭にどうしても太刀打ちできない。すべての分野で健康で強い頭が必要なのではないかと。

## 美術教育の広がりの中で

常任理事 藤江充（愛知教育大学）

美術教育は、「美術」から「アート」へ、「学校」から「地域」へと開かれ、ますます拡大してきました。こうした量的な広がりを通して、どのように質的に深めていくかというのが美術教育を進めていく上での大きな課題になると思います。

そのためには、関係者の個人的な努力も必要です。そして、そうした努力をまとめた大きな力とする組織も必要です。ただ、組織は個人のためにありますが、個人は組織のためにあるわけではありません。

教員養成・研修を担う組織を母体として生まれたこの部門・学会は、美術教育のさまざまな問題を研究していくだけでなく、その美術教育を実践的に進めていく教員を育てることに責任をもってきました。

組織のこうした特徴は、美術教育の当事者を育てるという意味からも、拡大した美術教育を、たばねて質的に深める一つの結節点となっていくと思います。他の関連組織（結節点）と連結することで美術教育の広がりに対応できる美術教育研究のネットワークを構築することができると思います。

## 平成 21 年度総務局と構成員の紹介

総務局長 山田一美 (東京学芸大学)

総務局は部門の総務局を兼務し、本学会と部門双方の共益的な関係の構築と円滑な運営をめざして組織されています。去る 6 月 13 日の拡大理事会において、平成 21 年度の総務局構成員が承認されました。以下、その委員氏名・所属・担当を記します。(※印は、部門関係担当役名)

### <総務部>

#### ○学会総務部長

山口喜雄(宇都宮大学／[学会関係総務部担当] 学会会計・名簿管理、会則、学会大会、国際交流委員会)

#### ○※部門総務部長

新関伸也(滋賀大学／[※部門関係総務部担当] 部門会計・名簿管理、規定、全国委員会、※教科内容学検討委員会担当、学会誌委員会)

#### ○理事(※委員)

藤田英樹(信州大学／学会誌委員会)

芳賀正之(静岡大学／学会誌委員会、学会・※部門ホームページ作成・管理)

大泉義一(横浜国立大学／※学術団体登録申請、※会報の作成・発行、附属学校委員会)

内田裕子(大分大学／※学会誌委員会)

小泉 薫(お茶の水女子大附属中／全造連部会)

三澤一実(武蔵野美術大学／私学対応、ポスター発表、学会誌委員会・総務局編集担当代表)

竹内とも子(千代田区立九段小／国際交流委員会)

### <事務部>

#### ○部長

佐藤聡史(民間／※会計事務(入金確認、予算執行、帳簿記録等)、会員管理(名簿管理、事務連絡、名簿発行・発送、個人会員の住所変更管理、名簿掲載の可否のチェック、会費督促等)、情報の集約・伝達(学会が発信する情報、受けた情報))

#### ○部員

柳澤 愛(民間／※会計事務(入金確認、予算執行、帳簿記録等)、会員管理(名簿管理、事務連絡、名簿発行・発送、個人会員の住所変更管理、名簿掲載の可否のチェック、会費督促等)、会議書記)

## <教員養成>の深化を促す学術研究をめざして

学会総務部長 山口喜雄 (宇都宮大学)

学会とは、「研究者相互の連絡、研究の促進、知識や情報交流、当該学術の振興を企図した協議などの諸事業を推進するために組織する団体」をいいます。

本学会が日本教育大学協会の美術部門を基盤として 1952 年に発足した経緯から、本学会の学術研究の軸は“教員養成”にあると考えます。図画工作・美術の戦後における軌跡は授業時数大幅削減の過程にあり、美術を専門とする教員の大幅削減に連動してきました。また少子化や行政改革の名の下に、大学関連予算の漸進的な削減、並びに教員養成大学の学生定員削減による美術教育講座教員削減という現実があります。

この危機的状況を突破するために本学会が、日本美術教育学会や美術科教育学会との連携を強化しつつ、“教員養成”の深化を促す多様で創造的な学術研究を展開することが求められていると思います。

9 月 26～27 日開催の〈2009 愛知大会〉に、より多くの会員が集まり、課題研究・口頭発表・ポスター発表や懇親会を通して研究者個々の研究の発展を期し、その集合体として本学会がその真価を發揮していけたらと祈念しています。私もその一員として微力を尽くします。ご理解ご協力をお願いいたします。

## 学会の改革に思う

部門総務部長 新関伸也(滋賀大学)

組織を維持可能にするためには、課題を明らかにして、短・長期的な観点からの修正や変更が必要となってきます。

本学会にそれを適用するとすれば、短期にあたる改善は、実務レベルの軽減です。事務局の実務や学会誌編集の負担が急務となっていました。事務の外部委託に連動して、学会誌編集の改善がすすめられています。将来に向けての本年度の編集にかかわる試行錯誤は、特に重要と思っています。

一方で、学会の特色を生かした長期的観点からの改善が必要です。本学会の特色は、美術教育に関連する理論と実技、実践など幅広い分野の研究者が会員となっている点にあります。美術教育を旗印にした本学会の総合的な潜在力を生かし、今後ますます求心力のある学会にするために、大会においての新しい企画や委員会の積極的な活動が求められます。□

## 新体制 2 年目に向けて

総務部理事 藤田英樹 (信州大学)

新しい体制が動き始めて1年が経過し、多くのことが変わりつつあります。昨年来、数回にわたり開催された総務局会議では、今までには考えられなかった実質的で実効性のある数々の議論がありました。本年度はそれらを実現していく年であると感じております。学会誌関連の見直しもその一つです。新しく学会誌委員長に大嶋彰先生(滋賀大学)を迎え、総務局も5名体制で取り組むこととなりました。規程の改正、学会誌事務の効率化など多くの問題があります。会員の皆様には一層のご理解とご協力をお願いいたします

## 新たな一歩を

総務部理事 三澤一実 (武蔵野美術大学)

総務局体制も2年目となり、本年度はより具体的な動きをしていく年と感じております。大学美術教育学会愛知大会では、ポスター発表を昨年試行をより発展させ、セッション形式と展示形式の2通りの発表形式で実施いたします。このことにより学会発表への多くの会員の参加と、多様な実践の紹介を可能にするとともに、学会員以外の方にも広く参加していただきたいと考えています。

## 学会の Web サイトの充実に向けて

総務部理事 芳賀正之 (静岡大学)

学会及び部門の組織・運営が見直される中、WikiによるWebサイト

<http://saeu.arrow.jp/wiki.cgi>

を開設しました。詳しい内容については「大学美術教育学会会報 No.20」で述べてあります。最新情報として、9月に開催される「愛知大会」や論文投稿の案内を載せてあります。大会と学会誌に関しては年度ごとに更新されていく情報です。学会及び部門の活動とともに、学会のWebサイトを充実させていきたいです。

## 美術教育研究のフレーム

総務部理事 大泉義一 (横浜国立大学)

本学会は、我国における美術教育研究の成果と課題が交差し共有される機会です。そこでは、学校教育における図画工作・美術科教育、社会における美術教育、保育における造形教育など、様々なフィールドからの問題提起がなされます。また、理論研究、実技制作研究、実践研究、はたまたそれらの往還による研究など、様々な研究の主体や目的から導き出

された研究活動のあり様を見ることができます。

こうしたある種、混沌とした状況をあからさまに見ることができるからこそ、本学会の使命を強く感じざるを得ません。そのための小さな一翼を担うことができれば、この上ない喜びです。

## 宜しくお願い致します。

総務部理事 内田裕子 (大分大学)

ある日、「図画工作」の授業を終えると、1人の受講生が私に近付き訴えました。「私、将来、図工を教えることが凄く不安です。」描画が苦手なのが不安の理由でした。「ただ、苦手と言っても、何かを見て描く方が自分で想像して描くよりもまだ何とか描けます。想像画は自分の頭の中にあることだけで描かなくてはならないので上手い下手以前に手が出ません。」この学生の不安は、今の私の気持ちを代弁しています。本学会が、彼女(と出来れば、私)の不安を解消する場となるよう努めて参ります。宜しくお願い致します。

## 学会と図工室とをつないで

総務部理事 竹内とも子 (千代田区立九段小学校)

私は小学校の図画工作科の専科教諭として、日々、児童と共に造形活動を楽しみ、学習指導に携わっています。図画工作の研究会では、近年の新規教員採用の急激な増加にともない、特に若手教員の研修に力を入れています。このように広い意味で教員養成は、大学においてだけでなく、教員となってからも続いています。この度、総務部理事としてお声をかけていただいたことを大切にして、大学美術教育学会と学校現場での美術教育とをつなぐ役割を、少しでも果たしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

## ご挨拶

総務部理事 小泉薫 (お茶の水女子大学附属中学校)

この度、本学会の総務部の理事という役職に任命されました。これまでは附属の教員という立場から学会に参加していたわけですが、これからは会の内側から会を運営していく立場に変わり、身が引き締まる思いであります。6月の役員会に始めて参加させていただきましたが、そこでは役員の皆様の造形美術教育に対して真摯で熱い思いを感じることができたと同時に、会を運営していくことの苦労や難しさも感じることができました。微力ながら会の発展のために取り組んでまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

# 平成21年度 役員組織(案)

■理事長 橋本光明(信州大学)

■副理事長

大嶋 彰(滋賀大学) 増田金吾(東京学芸大学)

■常任理事

藤澤英昭(千葉大学) 藤江 充(愛知教育大学)

■総務局 局長 山田一美(東京学芸大)

・総務部 学会総務部長 山口喜雄(宇都宮大学)

\*部門総務部長 新関伸也(滋賀大学)

理事

三澤一実(武蔵野美術大学)、藤田英樹(信州大学)、芳賀正之(静岡大学)、大泉義一(横浜国立大学)、内田裕子(大分大学)、小泉 薫(お茶の水女子大附属中)、竹内とも子(千代田区立九段小)

・事務部 部長 佐藤聡史

委員 柳澤 愛

■ 地区全国理事

I [北海道] 福山博光(北教大学岩見沢校20-21年度)  
前田英伸(北教大学岩見沢校21-22年度)

[東北] 煤孫康二(岩手大学20-21年度)  
立原慶一(宮城教育大学21-22年度)

II [関東] 横尾哲夫(埼玉大学20-21年度)  
相田隆司(東京学芸大学21-22年度)

III [北陸] 高石次郎(上越教育大学20-21年度)  
郷 晃(新潟大学21-22年度)  
[東海] 辻 泰秀(岐阜大学20-21年度)  
宇納一公(愛知教育大学21-22年度)

IV [近畿] 長谷川哲哉(和歌山大学20-21年度)  
鈴木幹雄(神戸大学21-22年度)

[四国] 安東恭一郎(香川大学20-21年度)  
杉林英彦(愛媛大学21-22年度)

V [中国] 小野山和男(岡山大学20-21年度)  
高橋正訓(島根大学21-22年度)  
[九州] 永津禎三(琉球大学20-21年度)  
桶田洋明(鹿児島大学21-22年度)

VI [私大代表] 水島尚喜(聖心女子大学20-21年度)  
山中 隆(華頂短期大学21-22年度)

■ 大会運営理事

宇納一公(愛知教育大学20-21年度)  
(21-22年度は関東地区)

■ 監事

上野行一(高知大学 20-21年度)

西村俊夫(上越教育大学)

■ 学会誌委員会

委員長 大嶋 彰(滋賀大学)

副委員長 三澤一実(総務局編集担当代表  
武蔵野美術大学)

○20-21年度委員

本村健太(岩手大学)、茂木一司(群馬大学)、直江俊雄(筑波大学)、松本健義(上越教育大学)、上山 浩(三重大学)、佐藤賢司(大阪教育大学)、佐々有生(島根大学)、中村和世(広島大学)、山木朝彦(鳴門教育大学)、池川 直(鹿児島大学)

○21-22年度委員

蝦名敦子(弘前大学)、佐藤哲夫(新潟大学)、栗田真司(山梨大学)、新野貴則(山梨大学)、小澤基弘(埼玉大学)、神野真吾(千葉大学)、河野令二(山口大学)、日野陽子(香川大学)、前村 晃(佐賀大学)

<私大>

小林貴史(東京造形大学)、久保村里正(文教大学)、水島尚喜(聖心女子大学)

[総務局]

新関伸也(滋賀大学)、藤田英樹(信州大学)、芳賀正之(静岡大学)、内田裕子(大分大学)

■ 国際交流委員会

委員長 山口喜雄(宇都宮大学)

副委員長 向野康江(茨城大学)、直江俊雄(筑波大学)

委員 安東恭一郎(香川大学)、池内滋朗(福井大学)、鈴木幹雄(神戸大学)、金子宜正(高知大学)、福田隆真(山口大学)、仲瀬律久(聖徳大学)、浜本昌宏(元三重大学)、煤孫康二(岩手大学)、長田謙一(首都大学東京)

[総務局] 竹内とも子(千代田区立九段小)

# 平成 21 年度 事業計画 (案)

# 学会誌委員会より

学会紙委員長 大嶋 彰 (滋賀大学)

## [平成 21 年]

- 5月 23日 第1回総務局理事会、総務局拡大理事会  
(東京学芸大学)
- 6月 13日 第1回学会理事会、拡大理事会  
(東京学芸大学)  
学会誌委員会、国際交流委員会の各委員  
会の開催 (同上)
- 6月中旬 第48回大学美術教育学会「愛知大会」第1  
次案内及び学会通信発送
- 7月 17日 大学美術教育学会「愛知大会」研究発表・  
ポスター発表申込締切
- 8月 平成 20 年度会計監査、平成 21 年度学会会  
報、「愛知大会」第2次案内発送
- 8月 20日 大学美術教育学会「愛知大会」研究発表・  
ポスター発表要旨締切、投稿論文登録申込  
締切
- 9月 日本学術協力団体申請
- 9月 13日 第2回総務局理事会
- 9月 15日 大学美術教育学会「愛知大会」事前参加申  
込締切、投稿論文提出締切
- 9月中旬 第2回総務局理事会 (東京学芸大学)
- 9月 25日 第2回学会理事会、学会誌委員会、国際交  
流委員会等開催 (名古屋：ナディアパーク  
国際デザインセンター)
- 9月 26日 大学美術教育学会「愛知大会」開催 (同上  
国際デザインセンター) 開会式、課題研究、  
ポスターセッション、研究発表、部門・学  
会合同懇親会
- 9月 27日 研究発表、学会総会、閉会式 大会開催大  
学引継ぎ (愛知教育大学一次期開催大学)、  
次期理事長選考委員会の設置
- 11月 7日 学会誌委員会
- 12月上旬 掲載論文提出締切、学会誌編集作業開始
- 12月 平成 21 年度会員名簿刊行・発送

## [平成 22 年]

- 1月下旬 第3回総務局理事会 (東京学芸大学)
- 2月 学会フォーラム開催予定  
(開催場所：東京 or 長野予定)
- 2月～3月 第3回学会理事会、拡大理事会 (東京文化  
会館予定) 学会誌委員会、国際交流委員  
会の各委員会の開催 (同上予定)
- 3月下旬 学会誌 42 号刊行

本年度より、学会誌委員会の組織体制が大きく変わりました。これまでの学会誌編集委員会を廃止し、それに代わって総務局理事から副委員長 (編集担当代表) に加え 4 人の方を編集担当として配置することになりました。このことによって実働的な編集組織ができあがったと思います。

この組織が順調に動き出すまでにはまだ時間がかかりそうですが、事務局との連携を密にしながら、各々の役割分担を明確にし、今後の学会誌委員会運営の簡略化と効率化をめざして、その基盤をつくり上げなければならぬと思っています。委員会の円滑な運営にあたりましては、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成 21 年度の主な活動は、以下の日程で行われます。

- 6月 13日 (土) 第1回学会誌委員会
- 7月 5日 (日) 学会誌編集担当会議
- 8月 20日 (木) 投稿論文登録締切
- 8月 24日 (月) 投稿論文受理通知・執筆要領  
送付 (受付後随時発送)
- 8月～ 査読協力者委嘱交渉
- 9月 15日 (火) 投稿論文提出締切
- 9月 18日 (金) 査読論文・査読依頼関係文書発  
送
- 9月 25日 (金) 第2回学会誌委員会  
(愛知大会前日)
- 10月 16日 (金) 査読結果返送締切
- 11月 7日 (土) 第3回学会誌委員会
- 11月 9日 (月) 投稿論文査読結果の通知 (原  
稿一式提出依頼・執筆要領等  
送付)
- 12月 4日 (金) 掲載論文提出締切  
条件付論文の返送締切
- 12月上旬 条件付論文掲載可否結果通  
知
- 2～3月 第4回学会誌委員会
- 3月下旬 学会誌第42号刊行

以上が、本年度委員会の主な活動スケジュールです。学会誌発行に向けて、新しい組織と事務局との連携作業をうまく軌道に乗せるためには、まだ多くの課題があるのが実状ですが、この学会の特徴に即したあり方を探って行きたいと考えています。

また、学会誌の充実のために、論文執筆要項から査読のあり方など、より良い方法をめざして現在検討を重ねています。とくに、学会誌の質の向上に最も重要な査読については、他学会のピアレビューに関する倫理規程なども参照し検討を加えています。現時点では本学会の特徴を最大限生かす方向で考えています。

ただ、共同執筆者のあり方については、学校現場や他領域とのさまざまな連携を促す意味で、執筆者の会員資格を柔軟にする規程の変更などを提案する予定です。

佐藤哲夫前委員長が会報で述べられたように、何よりも美術教育のホットな議論と共同が生まれるような、活気ある場にするために学会誌の方向を探りたいと考えています。三澤一実副委員長を中心として提案されたポスター発表の実現など、新たな試みも始まっています。

さて法人化以降、教大協全国美術部門のあり方も大きく変化してきていることから、部門と一体となって活動してきた本学会運営も同様に大きな組織改編を迫られていることは周知の通りです。しかし言うまでもなく、本学会誌の存在意義は極めて大きいものがあります。教科教育プロパーから各教科専門、そして学校現場の方や学芸員の方など、美術関係者が一堂に会して発表する場は本学会を置いて他にないわけですから、まずこのことを土台に志向すべきだと思います。

とくに最近感じることは、美術教育の新たな重要性です。現在の日本社会の行き詰まりと同様に、「美術」自体もやせ細ってきたのではないかという思いがあるからです。それならば、美術教育がしっかりしなければというのが、いまの偽らざる気持ちなのですが、いかがでしょうか。個人的な言い方になりますが、現在のようなセーフティーネットの崩壊は、結局は美術教育の脆弱さにも通ずるものがあるような気がしています。そしてそれは、さらなる土台造りから始めなければならないと思います。

## 国際交流委員会 中間報告

国際交流委員長 山口喜雄（宇都宮大学）

### 1 第1回委員会議事録【概要／敬称略】

日時：平成21（2009）年6月13日（土）12：30～13：30

場所：東京学芸大学（美術棟1階：造形実習室）

出席：安東恭一郎・向野康江・中村和世・浜本昌宏・

山口喜雄（50音順）

議事：本年度の委員会活動方針下記(1)～(4)を協議

(1) 中国内陸部学校訪問計画：平成22（2010）年9月下旬を想定。鄭州輕工業工業学院の郭新生教授を介して交渉し、第2回日中学術交流研究会の開催を図る。

(2) 事務局体制：1年ごとの当番制とし、委員が2名一組で担当する。初担当は本年6月13日～2010年6月中旬、安東恭一郎（香川大）・向野康江（茨城大）。

(3) 『大学美術教育学会国際交流情報』の創刊：第1号は新総務理事の竹内とも子（千代田区立九段小）と理事長推薦による煤孫康二（岩手大）の両新委員を含め委員全員が記事を執筆する。本年度事務局あいさつを向野康江、刊行理念を安東恭一郎が執筆する。創刊号のみ山口喜雄が編集・印刷を行い、佐藤聡史事務局長に送付、他の学会刊行物と共に全会員に届ける。

(4) その他：1)本委員会の委員の任期は2年が目安であるが、明確に定めていない。新委員の推薦等は、逐次行う。2)中村和世委員は学会誌委員会委員に専念するために本委員を6月13日の委員会終了後に辞退。福本謹一委員は教大協全国美術部門副委員長就任のため、同日同様に辞退。3)『大学美術教育学会国際交流情報』第2号は、留学生・院生等にも呼びかけ、記事内容の多様化や情報収集拡大を図る。

※以上、事務局の向野康江（副委員長兼務）執筆による。

### 2 『国際交流情報』の創刊

本学会の活動がより国際的視野をも含めた多彩な研究活動を展開し充実することを期待して、定期的に国際交流活動の情報を提供する冊子にし、本学会員に頒布する。本学会員の多くは、学会創設以来現在に至るまで西欧に渡航・留学し、その成果を学会発表やシンポジウムなどで開示し、日本の美術教育発展に大いに寄与してきた。加えて、海外から日本への留学生も増加し、日本において習得した美術教育研究が国内外で活用されつつある。一方、これまで国際的な研究活動は多くの場合、個人の努力によって展開され紹介される状況が基本となっており、組織的に支援したり活動したりする場面がほとんどなかった。そのため海外留学で得られた知見や国際的な美術教育研究の取り組みは、関心のある研究者のごく限られた範囲にしか行き渡らない現状もあった。

情報誌『国際交流情報』の刊行で、会員の国際交流活動の定期的な紹介、国際的な美術教育研究動向の発信が可能となる。さらに、日本に留学中の留学生の発言の場、留学生を支援する方々の情報交換の場、日本留学後に本国内で活躍されている海外研究者からの投稿など留学生を軸とした新ネットワーク形成の一助ともなろう。

このように、国際的な研究活動や国際的な研究内容を精力的に取り上げ、刺激的な発信源となる冊子の発刊をめざし、本邦の美術教育のさらに発展を願っている。

※以上は、事務局の安東恭一郎「創刊の言」からの要約。

# 第 48 回 大学美術教育学会 愛知大会のご案内（最終案内）

第 48 回大会の日程と主な内容、研究発表(ポスターセッション・ポスター展示・口頭発表)の内容が決定しましたのでお知らせします。今回、愛知大会ではポスターセッション 13 件、ポスター展示に 7 件、口頭発表には 44 件の応募がありました。多くの申し込み有り難うございました。大会当日には大勢の方々に発表者とのセッションに参加いただくとともに、今後の研究発表のあり方についても忌憚なく意見交換をする場になることを期待しております。皆さま奮ってご参集下さいませようお願い申し上げます。

## 大会参加、懇親会申し込み方法

どなたでも参加出来ます。事前申込は 9 月 15 日(火)までに所定の振り込み用紙、もしくは ATM 等で「ゆうちょ銀行」に氏名、所属を明記してお振り込み下さい。口座番号:00800-5-120933 口座名称:第 48 回大学美術教育学会愛知大会 当日参加も可能です。

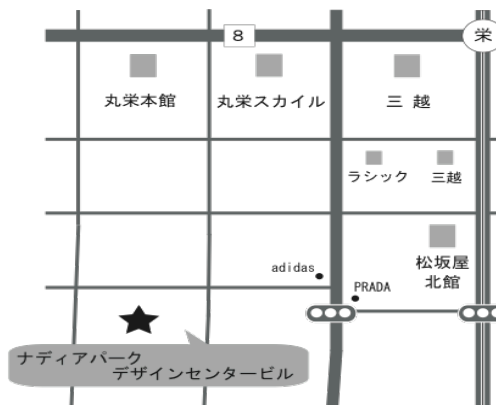
大会参加費 5000 円(会員非会員とも) 4500 円(院生、学生) 懇親会費 5000 円(なお 9 月 16 日以降の申込みの場合は、6000 円になります)

## 大会会場

ナディアパーク国際デザインセンタービル 3F、6F (名古屋市中区栄 3 丁目 18 番 1 号)

## 会場までのアクセス

JR名古屋駅で下車し、地下鉄東山線藤が丘行き「栄」駅下車、サカエチカ 8 番出口より徒歩 5 分



## 大会日程

### 前日 9月25日(金) 各種委員会・理事会

13:00	総務局理事会・委員会 (6F セミナールーム 1)
13:30	学会誌委員会 (6F セミナールーム 1)
	大学部会総会 (6F セミナールーム 3)
	国際交流委員会 (6F 共同研究会議室)
14:30	全国美術部門委員会 (6F セミナールーム 1)
	全美協総会 (6F セミナールーム 3)
	教科内容学全体会、各部会 (6F 共同研究会議室)
16:00	★拡大理事会 (6F セミナールーム 1)
17:30	教科内容学検討委員会報告会 (6F セミナ 1)

### 第 1 日 9月26日(土) デザインセンター3F/6F

9:30	3F 受付 (デザインホール)
10:30	3F 教大協美術部門 開会式 (同上) 部門協議会 「教科内容学は美術教育を進化させるか?」 パネリスト: 渡辺邦夫 (横浜国立大学准教授)、 石井壽郎 (東京学芸大学准教授) 渡邊晃一 (福島大学准教授)、 永守基樹 (和歌山大学教授)、 山本朝彦 (鳴門教育大学教授)
11:40	コーディネーター: 松浦 昇 (金沢大学教授)
	昼食・休憩
13:00	3F 学会開会式 (デザインホール) 課題研究「メディアと美術教育」 基調提案者: 酒井和行 (元NHK 江戸川大学教授) 発表者: 上山 浩 (三重大学教授) 富山邦夫 (愛知教育大学教授) 塚越勇吾 (名古屋市立北陵中学校教諭)
	司会: 藤江 充 (愛知教育大学教授)
14:30	3F ポスターセッション (デザインホール)
15:30	会場移動
18:00	6F 研究 (口頭) 発表 I (セミナールーム 1、2、3、デザイン工房、 プレゼンテーションルーム)
18:30	会場移動
	懇親会 (ビジネスセンタービル 8F)
20:30	レストラン「宙 (そら)」



第2日 9月27日 (日)

デザインセンター6F

9:00	6F	受付 (ポスター返却)
9:30	6F	研究(口頭)発表Ⅱ (セミナールーム1、2、3、 プレゼンテーションルーム、デザイン工房) 会場移動
12:00	6F	学会総会 (プレゼンテーションルーム)
13:00		

研究発表等一覧

■ ポスターセッション

3F デザインホール

9月26日(土) 14:30~15:00 終日ポスター展示

発表題目	発表者
触れる彫刻制作・彫刻を楽しむ空間作り	野村和弘 (愛知教育大学)
造形ワークショップにおけるファシリテーション	渡辺一洋 (育英短期大学)
中・大連携による鑑賞活動の可能性 「旅するムサビプロジェクト」の成果	鈴木斉(東京都羽村市立第三中学校)
創造のきっかけを作るワークショップ「かいてみようシルエット」	木谷安憲(東京芸術大学大学院生)
多様な生徒の興味関心を高め、制作意欲を継続させる50のオリジナル題材開発	黒木健(秋田県立仁賀保高校)
芸術における地域文化の創造について	渡邊晃一 (福島大学)
彫刻の鑑賞方法の提案とその実践	奥西麻由子 (埼玉学園大学)
美術鑑賞教材『Visual Thinking Strategies』に関する考察	渡部晃子(筑波大学大学院生)
透明プラスチック素材の可能性についての研究 造形ワークショップの実践を通して	川原崎知洋 (静岡大学)
視覚混合を表出する絵画技法についての一考察	桶田洋明 (鹿児島大学)
視覚に障害のある子どもたちとの活動実践	加藤加奈衛 (大阪教育大学)
地域文化を創出するアートスペースの取り組み—KAPL コシガヤアートポイント・ラボの実践—	浅見俊哉(埼玉県八潮市立八条中学校)
色相環になる絵具	渡辺邦夫 (横浜国立大学)

■ ポスター展示

3F デザインホール

9月26日(土) 終日ポスター展示

クイーンシャーロット島探訪	坂巻正美(北海道教育大学)
大学院授業における鑑賞補助教材開発の実践研究	小池研二(横浜国立大学)
子どもの造形活動における保護者のかかわりについて—東御市梅野記念絵画館の実践より—	桜井弥生(NAGA NO・アートチャレンジ教室)
安土桃山時代・江戸時代の陶磁器の絵柄の鑑賞について	桜井剛(清泉女学院短期大学)
社会に対し美術教育の価値を伝える活動を	山崎正明(北海道千歳市立北斗中学校)
山梨大学 井坂研究室における試み1 「夢への階段 足 motto!! @rt」(JR 甲府駅北口階段におけるアートプロジェクト)	井坂健一郎 (山梨大学)
山梨大学 井坂研究室における試み2 「ぶどうの木炭によるドローイングの可能性」(山梨の地元資源を活かした、美術と環境教育の実践)	
飛翔する鳥/無限連続パズル	渡辺邦夫(横浜国立大学)

■ 研究(口頭)発表Ⅰ

デザインセンター6F

第1日 9月26日(土)

セミナールーム1

15:30 ~	図工・美術の授業研究フォー	加藤真也(愛知県立大府養護学校)
15:55	ットについて	
16:00 ~	小学校の美術教育における想像	國清あやか(広島大学附属小学校)
16:25	力を育む授業の研究	
16:30 ~	東京学芸大学美術科工芸研究室における教育実践について	古瀬政弘 (東京学芸大学)
16:55		
17:00 ~	美術科教育実践力育成のための	山本朝彦(鳴門教育大学大学院),
17:25	大学カリキュラムの開発—授業構想力についての自己省察力を中心にして	山田芳明(鳴門教育大学大学院)
17:30 ~	考える力、表現する力を育て、新しい意味や<私>をつくり続ける図画工作	青木善治(新潟県三条市立月岡小学校)
17:55		

第48回 愛知大会

## セミナールーム2

15:30 ~ 15:55	学習題材としての美術館鑑賞学 習—小学校3年生における実践 から—	井ノ口和子 (上越教育大学大 学院生)
16:00 ~ 16:25	盲学校における彫刻鑑賞の実践 研究	倉科絵美 (信州大 学大学院生)
16:30 ~ 16:55	鑑賞授業における評価の観点か らのワークシート検証—宮城教 育大学附属中学校での実践を通 して—	蝦名敦子 (弘前大学)
17:00 ~ 17:25	造形美術作品の鑑賞学習に関す る研究 (仮題)	前村晃・栗山裕至 (佐賀大学)
17:30 ~ 17:55	対話的ギャラリートーク型鑑賞 指導の教材に関する考察【3】 —『MITE! ティーチャーズキッ ト3』を用いた実践から	吉田貴富 (山口大学)

## セミナールーム3

15:30 ~ 15:55	美術教育における写真の可能性 についての考察	西園政史 (兵庫 教育大学大学院連 合研究生 (上越教 育大学配属))
16:00 ~ 16:25	墨色表現の可能性—水墨画と写 真等におけるモノクローム表現 の比較—	佐瀬智美 (福島大 学大学院生)
16:30 ~ 16:55	円の表現にみる今日的意味—勅 使河原蒼風を中心に—	富山陽子 (福島大 学大学院生)
17:00 ~ 17:25	絵画表現における空気遠近法の 一考察	松永拓己 (熊本大学)
17:30 ~ 17:55	現代における「気」の思想と美 術表現	美濃谷学 (福島大 学大学院生)

## プレゼンテーションルーム

15:30 ~ 15:55	美術教育における映像表現の知 覚—触覚的装置による時間造 形—	佐原理 (名古屋文 理大学)
16:00 ~ 16:25	映像メディア表現教材としての コマ撮りアニメ制作	上山浩 (三重大学)
16:30 ~ 16:55	美術系教養教育科目でのCSCLシ ステム“hikoboshi”の活用	大岩幸太郎, 内田 裕子, 廣瀬剛 (大分大学)

17:00 ~ 17:25	壁画制作における公共の意識につ いて—事例を基にした考察から—	浅野卓司 (桜花学 園大学), 藤田雅也 (名古屋経済大学)
17:30 ~ 17:55	芸術活動を通してのまちづくり 福島大学のプロジェクト研究を通 して—	安藤まゆみ (福島 大学大学院生), 渡 邊晃一 (福島大学)

## デザイン工房

15:30 ~ 15:55	メディア時代の《十牛図》—現 美術における「見跡」を中心に	渡邊晃一 (福島大学)
16:00 ~ 16:25	櫻井英嘉のストライプ—1990年代 後半の変貌より— (仮題)	山本斉 (松山東雲 短期大学)
16:30 ~ 16:55	戦後の美術科教科書における掲載 作品の研究 —「平和」題材の記述に関する考 察	山口喜雄 (宇都宮大学)
17:00 ~ 17:25	構成教育再考—「基礎造形」—造 形要素としての形態 (形体) に視 点をあてて—	河村禎憲 (鳥取県八頭町立 船岡中学校)
17:30 ~ 17:55	鈴木定次の手工教育の考察	齊藤暁子 (岐阜県郡上市立 牛道小学校)

## ■ 研究 (口頭) 発表Ⅱ

デザインセンター6F

第2日 9月27日 (日)

## セミナールーム1

09:30 ~ 09:55	美術教育における「個性」と「自分 らしさ」の一考察	金澤貴子 (宇都宮 大学大学院生)
10:00 ~ 10:25	図画工作科教育における「生きる 力」の育成についての一考察— (選択する行為) を基盤とした授業—	神保悠 (大阪教育大学大 学院生)
10:30 ~ 10:55	子どもの造形的な行為における「学 び」の様相—小学校図画工作科にお ける木を素材とした「つくりたいも のをつくる」活動から	福井一真 (上越教育大学研 究生)
11:00 ~ 11:25	作品に愛着が持てる陶芸指導— 練り込み技法を用いた、たたらづく りによるフリーカップの製作	土屋教資 (愛知県名古屋市 立緑高等学校)

## セミナールーム2

09:30~ 09:55	<痕跡的表現>に着目した制作と鑑賞についての一考察～絵画作品に対する“疑問”の構造～	森岡輝次 (大阪教育大学大学院生)
10:00~ 10:25	美術教育の観点からの共同学習の意義 (仮題)	岡田京子 (新潟大学大学院生)
10:30~ 10:55	主題表現法に基づく造形表現力と鑑賞及び評価能力育成に関する考察一題材「季節感のある和菓子のデザイン～仙台の四季～」を通して一	立原慶一 (宮城教育大学)
11:00~ 11:25	美術教育における協同的学びに関する一考察	手塚千尋 (兵庫教育大学大学院連合院)

## セミナールーム3

09:30~ 09:55	水と土の芸術祭教育プロジェクト「みずつつちパラダイス」のねらいと概要	佐藤哲夫 (新潟大学), 小出美慧 (新潟大学大学院生)
10:00~ 10:25	地域・大学・小学校が連携したアートプロジェクトの一考察～「SUZAKART2008 アートプロジェクト」を事例として～	櫻井由希子 (信州大学大学院生)
10:30~ 10:55	地域を生かした教材開発	野田俊司 (長野市立篠ノ井西小学校)
11:00~ 11:25	地域の環境や人材を活かした文化芸術活動について ～豊田市「子どものアート体験プログラム」の実践から～	藤田雅也 (名古屋経済大学短期大学部)

## プレゼンテーションルーム

09:30~ 09:55	”夢・無意識”にアプローチする絵画表現	茂木拓 (広島大学大学院生)
10:00~ 10:25	浮遊する造形の研究	石橋碧依 (福岡教育大学大学院生)
10:30~ 10:55	自然物の形態における立体造形の考察	塩井一孝 (福岡教育大学大学院生)

## デザイン工房

09:30~ 09:55	アーサー・ダウにおけるフェノロサの美術教育論の受容と実践的展開	中村和世 (広島大学大学院生)
10:00~ 10:25	ジャン・パティスト・カルポーの彫刻に関する考察一作品《天文台の泉 (世界を支える四つの部分)》について一 (仮題)	王明明 (兵庫教育大学大学院連合研究生)
10:30~ 10:55	展覧会「ムサビる」における中学校と大学との連携 一選択廃止による今後10年に向けて一	三澤一実 (武蔵野美術大学)
11:00~ 11:25	自由になるための技術を得るワーク ショッパー人と技術の重要性一	押元伸幸 (川口短期大学)

## 宿泊情報

(会場近辺の一泊お一人の値段を挙げてあります。その他のホテルにつきましては各種旅行社等にてお調べください。予約問い合わせは各自でお申込下さい。)

■栄地区…JR 東海道線名古屋駅から地下鉄東山線藤が丘行き約5分栄駅下車近辺

ホテル名	参考宿泊料金	交通情報
ホテルルートイン名古屋栄	6,000 ～7,300	栄駅下車 12 番出口 徒歩7分
紀州鉄道名古屋栄ホテル	3,595 ～6,825	栄駅下車 1 番出口 徒歩2分
ホテルセントメイン名古屋	5,040 ～8,925	栄駅下車 13 番出口 徒歩8分
ホテルトラスティ名古屋栄	6,037 ～10,500	栄駅下車 2 番出口 徒歩1分
アパホテル名古屋錦	5,700 ～16,275	栄駅下車 2 番出口 徒歩1分
東京第一ホテル錦	6,300 ～11,100	栄駅下車 1 番出口 徒歩2分
名古屋ガーランドホテル	5,700 ～8,190	栄駅丸栄百貨店西 徒歩1分
ホテルプリシード名古屋	7,800 ～16,065	栄駅下車 12 番出口 徒歩4分
名古屋東急ホテル	6,100 ～57,500	栄駅下車 12 番出口 徒歩8分
ホテルコムズ名古屋	3,675 ～9,135	栄駅下車 5 番出口 徒歩7分
プリンセスガーデンホテル	6,700 ～9,450	栄駅下車 7 番出口 徒歩8分
名古屋栄東急イン	6,900 ～15,855	栄駅下車 8 番出口 徒歩8分
ザ・ビー名古屋	6,900 ～9,765	栄駅下車 13 番出口 徒歩5分
チサンイン名古屋	4,700 ～8,500	栄駅下車 12 番出口 徒歩4分
名古屋錦ワシントンホテルプラザ	5,985 ～11,445	栄駅下車 1 番出口 徒歩3分
名古屋国際ホテル	6,700 ～11,600	栄駅下車 8 番出口 徒歩2分

■伏見地区…JR 東海道線名古屋駅から地下鉄東山線  
藤が丘行き約3分伏見駅下車近辺

ホテル名	参考宿泊料金	交通情報
リッチモンドホテル名古屋納屋橋	6,980 ～8,820	伏見駅下車 7 番出口徒歩 5 分
ハミルトンホテルアネックス	6,300 ～10,500	伏見駅下車 6 番出口徒歩 3 分
伏見モンブランホテル	5,250 ～10,290	伏見駅下車 5 番出口徒歩 2 分
名古屋栄ワシントンホテルプラザ	7,350 ～8,610	伏見駅下車 4 番出口徒歩 7 分
コンフォートホテル名古屋チヨダ	3,800 ～6,300	伏見駅下車 8 番出口徒歩 5 分
ホテルラスティ一名古屋	6,930 ～14,280	伏見駅下車 1 番出口徒歩 4 分
ハミルトンホテル	7,500 ～12,850	伏見駅下車 5 番出口徒歩 5 分
ヒルトン名古屋	7,000 ～47,500	伏見駅下車 7 番出口徒歩 3 分
ホテルウイングインターナショナル名古屋	4,000 ～9,700	伏見駅下車 10 番出口徒歩 4 分
名古屋クラウンホテル	5,200 ～8,550	伏見駅下車 7 番出口徒歩 5 分
名古屋グリーンホテル	4,800 ～10,080	伏見駅下車 10 番出口徒歩 3 分
名古屋観光ホテル	7,875 ～25,200	伏見駅下車 8,9 番出口徒歩 2 分

## ★ 愛知大会に関する問い合わせ先

〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学美術教育講座内  
第 48 回大学美術教育学会愛知大会事務局  
大会実行委員長 宇納 一公  
kunoh@aecc.aichi-edu.ac.jp  
研究発表担当 鷹巣 純  
jtakasu@aecc.aichi-edu.ac.jp

## 事務局よりご連絡

事務部長 佐藤聡史（梅野記念絵画館）

- 愛知大会、投稿論文案内、会費納入についてのご案内を 6 月下旬に一斉に郵送させていただきましたが、万が一未着の方がおられましたら、事務局までご請求下さい。

daibibumon@po15.ueda.ne.jp

090-2560-5998

- 上記案内書類のうち、下記について訂正いたします。

(P3) 愛知大会案内の日程中、9 月 26 日（土）の課題研究のパネリスト等が記載漏れになっております。

基調提案：酒井和行（元NHK・江戸川大学教授）  
発表：上山浩（三重大）、富山邦夫（愛教大）、  
塚越勇吾（北陵中）

司会：藤江充（愛教大）

(P16) 振込口座番号 ハイフン間の数字が違います。

誤 大学美術教育学会 ゆうちょ銀行

00520-9-60065

正 大学美術教育学会 ゆうちょ銀行

00520-2-60065

- 会費の納入期限は 7 月 31 日までです。まだ納入されていない方は、大至急納入をお願いします。

- メールアドレス不明多数につき、お願いです。メールアドレスが相当人数にわたり不明になっております。平成 19 年度以前の登録アドレスと変更になっている場合は、必ず変更を届け出て下さい。

※国立大学の会員の皆様については、後日大学ごとに一括で確認作業を行います。ご協力をお願いします。

件名：変更届 と必ず明記下さい。

送信先：daibibumon@po15.ueda.ne.jp